

參考資料



参 考 資 料

1. 策定経過

【平成23年度】

- 現況調査
- 住民アンケート調査

- 平成24年 1月 □資料・文献調査
 3月 ◇広報に記事を掲載（計画策定のお知らせとまちづくり住民会議メンバーの募集）
 □現況調査・分析
 ◇住民アンケート調査の実施

【平成24年度】

- ヒアリング調査
- まちづくり住民会議
- 課題の整理
- 計画立案

- 平成24年 6月 ○関係各課ヒアリング
 ◆第1回まちづくり住民会議
 7月 ◆第2回まちづくり住民会議
 9月 ◇広報に記事を掲載（まちづくり住民会議の開催状況とアンケート調査結果の報告）
 ◆第3回まちづくり住民会議
 ◆第4回まちづくり住民会議
 11月 ◆「地域まちづくり住民プラン」の提出と意見交換
 12月 □課題の整理
 平成25年 1月 ○第1回庁内検討会
 2月 ◇広報に記事を掲載（まちづくり住民プランの概要）
 ●第1回策定委員会
 □計画立案

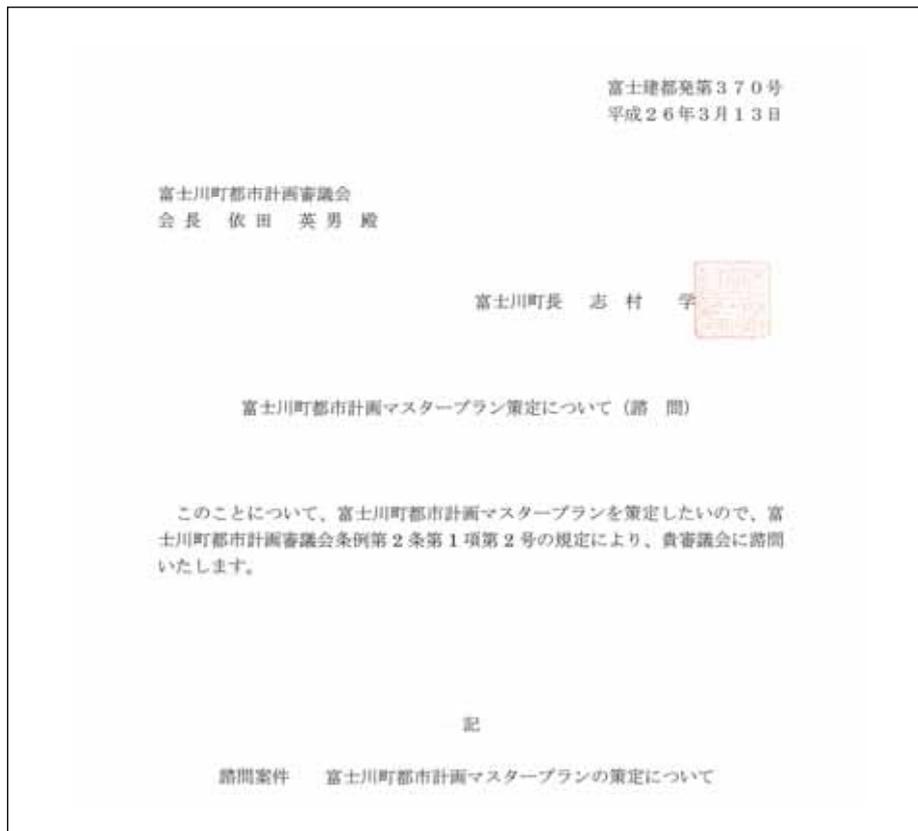
【平成25年度】

- 計画立案
- 調整と協議
- 都市計画マスタープランの決定

- 平成25年 4月 ○第2回庁内検討会
 5月 ●第2回策定委員会
 6月 ○第3回庁内検討会
 7月 ●第3回策定委員会
 8月 ○第4回庁内検討会
 10月 ●第4回策定委員会
 11月 ○第5回庁内検討会
 平成26年 1月 ●第5回策定委員会
 ◇広報に記事を掲載（パブリックコメントのお知らせと計画の体系）
 ◆パブリックコメントの実施
 2月 □山梨県都市計画課との協議
 3月 □都市計画審議会への諮問・答申
 □「富士川町都市計画マスタープラン」の決定

2 . 富士川町都市計画マスタープラン原案にかかる諮問・答申

諮問



■富士川町都市計画審議会



・町長あいさつ



・町長からの諮問

答申



・内容の説明



・審議

3 . まちづくり住民会議の概要

(1) まちづくり住民会議の目的と概要

■まちづくり住民会議の目的と進め方

まちづくり住民会議の目的

- ・「地域まちづくり住民プラン」の検討
- ・富士川町への提案書の提出
- ・策定委員会への住民提案の提示と代表者参画
- ・地域別構想および計画書への住民提案の反映

まちづくり住民会議の進め方

- ・平成 24 年6月～12月 計5回開催
(提案書提出含む)
- ・ワークショップ手法による協議
- ・各回の協議のまとめ、各回ニュースの発行



■まちづくり住民会議の経過

第1回 平成 24 年6月 12日(火)
○住民会議発足(住民会議ガイダンス)
まちや地域の将来イメージを共有しよう!

第2回 平成 24 年7月 24日(火)
○住民アンケート調査報告
地域特性と課題の整理、
提案の方向性を共有しよう!

第3回 平成 24 年9月 13日(木)
地域まちづくりの具体的な提案を整理しよう!

第4回 平成 24 年 11 月8日(木)
地域まちづくり住民プランをまとめよう!

提案書提出 平成 24 年 12 月 12日(水)
「地域まちづくり住民プラン」の提出

(2) まちづくり住民会議メンバー名簿

都市・田園地域

石川 勝 男	深 澤 かをる
杉 田 隼 司	笹 本 正
神 田 正 治	志 村 正 和
初 鹿 義 彦	佐 野 昭
折 居 和 雄	伊良原 誠
川 口 正 満	青 柳 好 春
井 上 征 男	青 柳 博 文
功 刀 千 秋	芦 澤 稔 也
秋 山 勇	樋 口 正 弘

平林・穂積地域

大 森 一 仁
小 池 太 一
仙洞田 清 司
井 上 和 夫
深 沢 勝 也
山 口 宗一郎
山 口 博 子

中部・五開地域

依 田 禮 司
新 幡 友 や
青 木 茂
窪 田 真由美
牧 野 雅 紀

(順不同、敬称略)

(3) 地域まちづくり住民プランの提案

趣 意 文

富士川町長 志村 学 殿

私たち「富士川町まちづくり住民会議」は、富士川町の呼びかけにより、平成24年6月の発足以来、これまで4回のワークショップを行ない、地域まちづくりに向けた検討を積み重ねてまいりました。

第1回では、「まちや地域の将来イメージを共有しよう」から、町全体のビジョン・将来イメージや地域のまちづくりで大切な視点について、参加者それぞれの素直な思い・意見等を交わしました。

第2回は、地域の現状の把握、また、地域にとって大きく課題となっていることを話し合い、内容を整理し、共有しました。第3回は、提案を整理し、より地域に密着し、地域特性に沿った具体的なプランを話し合いました。第4回は最終回として、提案の実現に向けた話し合いを実施し、提案書としてとりまとめました。

この「地域まちづくり住民プラン」は、住民の視点から真摯に協議を重ね、地域まちづくりについて創意と知恵を絞り、地域のあるべき姿を願い、まとめたプランです。

今後、富士川町における都市計画マスタープランの策定において、また、計画の推進・実現においては、この「地域まちづくり住民プラン」の内容を十分にご理解いただき、住民会議で検討した提案内容を、住民協働によるまちづくりプランとして、是非、ご活用いただくことを希望し、提案にあたっての趣意文といたします。

平成24年12月12日

富士川町まちづくり住民会議 参加者一同



・地域まちづくり住民プラン表紙



・地域まちづくり住民プランの提出



・意見交換



・富士川町まちづくり住民会議メンバー(町長を囲んで)

4 . 都市計画マスタープラン策定メンバー

(1) 策定委員会名簿

(順不同、敬称略)

所 属	職名等	氏 名		備 考
		平成 24 年度	平成 25 年度	
学識経験者	山梨大学大学院教授	大山 勲		委員長
議会代表	富士川町議会	鮫田 洋平		
	富士川町議会	長澤 健		
関係機関	山梨県県土整備部都市計画課まちづくり推進企画監	中村 克巳	望月 一良	
団体代表	農業委員会会長	望月 留幸	深沢 勝也	
	女性団体連絡協議会会長	堀内 春美		
	文化協会会長	澤登 昭文		副委員長
	ふじかわ農業協同組合総務部長	岡本 昭二		
	商工会副会長	依田 忠		
	社会福祉協議会会長	志村 一彦		
まちづくり住民会議代表	都市・田園地域	川口 正満		
		芦澤 稔也		
	平林・穂積地域	小池 太一		
		大森 一仁		
五開・中部地域	依田 禮司			
住民代表	都市・田園地域	山本 薫		
	平林・穂積地域	井上 和夫		
	五開・中部地域	望月真由美		
行政代表	総務課長	志村 廣文	鮫田 和博	
	企画課長	鮫田 和博	川手 貞良	
	財政課長	田辺 明弘		
	商工観光課長	秋山 俊男	依田 正一	
	防災課長	—	大森 博之	
	建設課長	川住資農夫		



・ 第 1 回策定委員会



・ 第 2 回策定委員会



・ 第 4 回策定委員会

(2) 庁内検討会名簿

(順不同、敬称略)

課名	担当	氏名		備考
		平成24年度	平成25年度	
総務課	総務人事担当	齋藤 靖		
防災課	防災担当	小林 喜文		※平成24年度は安全安心推進室交通防災担当
企画課	企画担当	長田 博幸		※平成24年度は政策推進担当
	リニア対策担当	—	樋口 一也	
財政課	財政担当	深澤 千秋	望月 大輔	
	財産管理担当	—	渡辺 成昭	
町民生活課	生活推進担当	西川 修司		
	生活環境担当	望月 学	原田 和佳	
福祉保健課	福祉担当	中沢美和子		
	障害福祉担当	望月奈緒美		
子育て支援課	児童支援担当	小林 恵		
	児童保育担当	渡辺 成昭	依田 克彦	
農林振興課	農林振興担当	大木 興一		
	農林土木担当	杉田 進		
商工観光課	商工振興担当	芦澤 晶子		
	観光振興担当	海野 公哉	依田 正紀	
上下水道課	下水道担当	井上 勝彦	長澤 康	
教育総務課	総務学校担当	長田 敏宏		
生涯学習課	社会教育担当	井上 誠		
建設課	土木担当	斉木 直人		
	都市計画担当	山形謙一郎		
	まちづくり担当	中込 浩司	井上 勝彦	
	住宅担当	齋藤 栄治	海野 公哉	

注) * 課名、担当名は、平成25年度現在のものを表記しています。



・第1回庁内検討会



・第2回庁内検討会



・第4回庁内検討会

(3) 事務局職員名簿

(順不同、敬称略)

職名等	氏名		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
建設課長	堀内 尚巳	川住資農夫	
都市計画担当リーダー	山形謙一郎		
都市計画担当	笹本 聖		小林 一貴
	金丸 哲也	浅野真由子	

5 . 用語解説

あ 行

IT

インフォメーションテクノロジー（英語：information technology）の頭文字をとった略語で、情報技術のこと。インターネット、通信、コンピュータなど情報に関する技術をさす。

アウトドア

アウトドア・アクティビティ（英語：outdoor activity）のことで、屋外で行うスポーツやレジャーの総称。

空き家バンク(制度)

空き家の有効活用を通し、地域住民と都市住民の交流拡大および定住促進による地域の活性化を図る事を目的に、空き家情報の提供を行う制度。空き家などを賃貸および売却を希望する所有者から物件の提供を求め、行政のホームページなどを通じて「空き家バンク」へ登録した物件情報を希望する人へ提供するもの。

アクセス道路(ルート)

ある目的の所へ行くための道路（経路）。

アグリツーリズム

広義には「都市と農村の交流」のこと。農場で休暇を過ごしたり、農業体験を通してふれあいの中で生まれる交流を楽しむ余暇活動のこと。

アダプトプログラム

里親制度をさす。ボランティアとなる住民や団体が里親となって、一定区画（公園など）を自らの養子とみなし、清掃・美化などを行い面倒をみる仕組みのこと。

アプローチ

近づく、接近すること。建築などの分野では、門から玄関にかけての導入路のことをいう場合もある。

雨畑硯

元禄時代、雨畑川流域で発見された粘板岩を利用し、彫刻や漆を施し加工した硯のこと。中国硯にも勝る良石として文人墨客の間でもはやされてきた硯の最高級品と高く評価されている。本町では鬼島地区を中心に製造され、伝統ある硯工芸が伝承されている。

あんしん歩行エリア

交通死傷事故の抑止を目的に、平成 15 年に警察庁と国土交通省から指定を受けたエリアで、歩行

者および自転車利用者の安全な通行を確保するため、緊急に対策が必要な地区のこと。エリア内では、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して面的かつ総合的な死傷事故抑止対策を講じることにより、死傷事故を約 2 割抑止するとともに、そのうち歩行者または自転車利用者に係わる死傷事故を約 3 割抑止することを目指すものである。

アンテナショップ

企業や自治体などが、自社（当該地方）の製品の紹介や消費者の反応を見ることを目的として開設する店舗のこと。

意匠

英語のデザイン（design）の訳語で、一般には形・色・模様・配置などにおける装飾上の工夫・図案などを意味するが、広く建築や公園のデザインというように造形活動に関する創作、設計行為などにも用いられる。

一店逸品運動

中小小売業者が逸品という、ひとつの商品やひとつのサービスの開発・発掘を通して、個店の品揃えを活性化させ、地域の商店街各店の活性化に波及させる運動のこと。

イヌガヤ(群生地)

イヌガヤ科の常緑樹であり、柳川地区の太郎坊権現境内に大小 40 株以上の群生がみられる。イヌガヤの群生は県内にも少なく、比較的大木が自生するこの群生は注目に値する。

インターンシップ

学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことで、学校と事業者（企業・行政・団体など）との連携によって行われるものをいう。

インパクト

物理的あるいは心理的な衝撃、影響や印象のこと。

インフラ

インフラストラクチャー（英語：infrastructure）の略語で、基盤や構造といった意味をもつ。一般的には、生活や経済活動を支える社会基盤のこと。道路、上下水道などのほか、学校、病院、公園、通信、交通等も含み、極めて相対的な概念である。

ウォークラリー

野外で開催され、グループ単位で与えられたクイズなどを解きながら一定の距離を歩くレクリエー

ションゲームのこと。

雨水流出抑制(施設)

雨水が急激に河川に流れ込むことにより生じる洪水(都市型洪水)に対応し、宅地内に降った雨水が直接下水道管や河川に流れ込むピーク時の量を抑えるための施設である。主に、宅地内に降った雨水を一時的に貯留する貯留施設(遊水池等)と雨水を地中に分散・浸透させる浸透施設(浸透枳・浸透管等)がある。

禹之瀬

富士川の富士橋より下流の狭窄部を「禹之瀬」と呼ぶ。名の由来は、治水をもって古代中国を治め、伝説的王朝「夏」を創始した「禹王」の徳にあやかったと言われている。甲府盆地は周囲の山々から水を集め、これらは、釜無川と笛吹川の二大河川となり鰍沢口で合流し、富士川と名を変え甲府盆地から流れ出る。その甲府盆地の唯一の水の出口が禹之瀬であり、大雨が降ると禹之瀬で十分に流下することができず、洪水や浸水の原因となっていたが、大規模な開削が行われ、現在の姿となった。

液状化(現象)

地下水位の高い砂地盤などで、地震の際に振動により一瞬にして砂と水が分離する現象のこと。これにより地表面は液状となり、地盤としての支持力を失ってしまうため、比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中の比重の軽い構造物(下水管等)が浮き上がったりする。発生する場所は砂丘地帯や三角州、港湾地域の埋め立て地などが多いが、近年では、地下水位が高い旧河川跡や池跡、水田跡などでも発生しやすいことがわかっている。

エコツーリズム

環境や社会的なものまで含めての生態系の維持と保護を意識し、地域社会発展への貢献を考慮したツーリズム(旅行、リクリエーション)のこと。エコツーリズムを具体化したツアーをエコツアーと呼ぶ。

エコビレッジ

持続可能性を目標としたまちづくりや社会づくりの概念で、「お互いが支え合う社会づくり」と「環境に負荷の少ない暮らし方」を追求する人々がつくるコミュニティのこと。特徴としては、環境に優しい建築、自然エネルギーの利用、有機農法の実践、雨水や排水の循環再生による水の循環利用、地域通貨やコーポラティブ組合組織で支え合う地域経済の実践、スモールコミュニティなどがあげ

られる。

エコファーマー

平成11年7月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律(持続農業法)」第4条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者(認定農業者)の俗称。

エコロード

エコロジー(ecology)とロード(road)を組み合わせた和製英語で、調査、計画段階から設計、施工、管理の段階まで、自然環境の保全にきめ細かく配慮された道路のこと。自然環境の改変を最小限とするよう適切な路線の選定を行うとともに、動物の生息地を分断しないように橋梁やトンネルを多く採用したり、動物用の横断構造物を設置して動物の移動を助けるなどさまざまな工夫が施される。また、必要に応じて、建設により損壊する自然環境を復元する等の措置をとる。

SNS

ソーシャルネットワーキングサイト(英語:social networking site)の頭文字をとった略語で、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のウェブサイトのこと。

NPO(特定非営利活動法人)

ノンプロフィットオーガニゼーション(英語:non-profit organization)の頭文字をとった略語で、行政や民間企業に属さず、社会的に必要な公益的活動を行う住民による非営利の組織のこと。

エリア

一定の区域、地域、地帯のこと。

縁側カフェ

一般に、古民家や農家の縁側等を活用したカフェ(喫茶・飲食店)のこと。単に喫茶や飲食が目的ではなく、情報交換の場や地域活性化の場としての活用も行われている。

延焼遮断機能

市街地における火災の延焼を防止する機能のこと。主に道路、河川、鉄道、公園、緑道等の都市施設を骨格として活用し、必要に応じてこれらの施設とその沿道等の不燃建築物を組み合わせることにより延焼遮断帯を構築する。

エンターテイメントツーリズム

多くの人々を楽しませることを目的とした文化的な活動を見聞、体験する観光形態のこと。

オーナー制度

元来、消費者が生産者に事前に出資し、生産物を受け取る仕組みのこと。今日では、自然や緑、棚田や農産物など多様なものについても適用され、そのオーナー（権利所有者）になり、自ら体験参加して保全や育成の一端を担うシステムについてもオーナー制度と呼ばれている。

オープンガーデン

ガーデニングの先進国イギリスで発祥し、個人の庭を開放し、一定期間一般の人々に開放するなど、地域の美化に寄与するボランティア活動のこと。

オープンスペース

公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地を総称している。

オアシス

元来、砂漠の中で水が湧き樹木が生えているところを示すが、今日では一般的に、疲れを癒し、心に安らぎを与えてくれる場所、憩いの場などの総称として用いられる。

追分

道が二つに分かれる場所をさす言葉で、街道や古道の分岐点のことをいう場合もある。

温室効果(ガス)

大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあり、これらのガスを温室効果ガスという。近年、産業の発展や森林の開拓等の人間活動の活発化に伴い温室効果ガスの濃度が増加し、大気中に蓄熱される量が増えたことにより、地球規模での気温上昇（温暖化）が進行しており、京都議定書をはじめ世界各国の排出量削減対象となっている。

か行

ガイドライン

ある物事に対する方針についての指針・指標のこと。ルールやマナーなどの決まり事、約束事を明文化し、それらを守った行動をするための具体的な方向性を示すもの。

回遊性

来訪者等が快適に効率良く歩き回ることができる特性のこと。

回廊

寺院、教会、宮殿などにおいて、建物や中庭などを屈折して取り囲むようにつくられた廊下のこと。本計画では、水と緑の豊かな環境を自由に移動しながら風景を楽しむルートを風景回廊と呼んでい

る。

鯉沢(落語)

大名人と言われた落語家「三遊亭円朝」の江戸時代（1861～1864年頃）の作で、江戸の「三題ばなしの会」で発表したとされる演目。身延参詣をする旅人の話で、富士川舟運の宿、身延山参りの拠点であった鯉沢を舞台とし、周辺の社寺や地名などが登場する。

過疎化

過疎とは、人口が急激かつ大幅に減少したため、地域社会の機能が低下し、住民が一定の生活水準を維持することが困難になった状態をいう。過疎化とは、過疎の状態に近づきつつある状態、あるいは過疎がさらに進行する状態のこと。

過疎地有償運送

バスやタクシーなどの公共交通機関で十分な輸送サービスが確保できない場合、一定の要件を満たしたNPO法人や自治会（認可地縁団体に限る）などが運送主体となり、事前に会員登録した住民等から、タクシーの半額程度の運賃を収受して運行する「地域の生活の足を守る」取り組み。道路運送法で定められた条件が必要であり、その条件を満たし、地域公共交通会議で協議にかけ承認を得てから運輸支局に申請、許可を得てはじめて運行ができる。

合併処理浄化槽

し尿と生活雑排水を併せて処理する浄化槽のこと。下水道のない地域での水環境の汚染の防止に有効とされる。

川の駅

川に近接するか、川の活動に関係した施設で、来訪者にトイレや休憩場所、地域の情報を提供し、人と人の出会いと交流を促進する空間や施設のこと。流域が情報を共有するためのネットワーク拠点であるとともに、川をテーマとした（体験学習、環境、レジャー、地域の歴史等）人々の交流・連携に向けた活動を目的に設置する。

環境教育

環境や環境問題に対する興味・関心を高め、必要な知識・技術・態度を獲得させるために行われる教育活動のこと。

環境負荷

人の活動により環境に加えられる影響で、環境を保全する上で支障の原因となるおそれのあるもの。

環境保全型農業

農薬や化学肥料の使用を抑え、自然生態系本来の

力を利用して行う農業のこと。

間伐材

森林の成長過程で密集化する立木を間引く間伐の過程で発生する木材のこと。

既成市街地

都市において、既に建物や道路などができあがって市街地が形成されている地域のこと。

狭あい道路

法律上の定義はないが、主に幅員 4m 未満の狭い道路のことで、いわゆる 2 項道路をさす場合が多い。自治体によっては細街路とも呼ぶ。

享受

受け入れて、自分のものにする。また、自分のものとして味わい、楽しむこと。精神的な面についても物質的な面についても用いる。

協働

複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。まちづくりの場合、住民と行政等がそれぞれの役割を担いながら、ともに協力し取り組みを進めるという意味で使用する。

クラインガルテン

ドイツを始めとするヨーロッパで盛んな、市民農園の形態の一つで、比較的広い区画を長期間に渡り賃貸する農地の賃借制度(独語:kleingarten)。日本語に直訳すると「小さな庭」であるが、市民農園や市民菜園とも言われており、野菜や果樹、草花を育て、生きがいや余暇の楽しみの創出、都市部での緑地保全や自然教育の場として大きな役割を果たしている。日本におけるクラインガルテンは、地方自治体の公共事業として、農山村の遊休農地を利用して整備されたものが多い。

クリーンエネルギー

電気や熱などに変換しても、二酸化炭素、窒素酸化物などの有害物質を排出しない(または少ない)エネルギーのこと。一般的には、自然エネルギーである風力・太陽熱・水力・地熱・潮力などが挙げられる。

グリーンツーリズム

農山漁村において、その自然と文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。また、そうした余暇の過ごし方を奨励することで地域振興を図ろうとする取り組みのこと。

グリーンバンク(制度)

市民・企業などの不用となった庭木等を登録し、必要とする市民・企業などに斡旋を行う制度。

グループホーム

病気や障害などで生活に困難を抱えた人たちが、地域でより自立的に生活できるように、専門スタッフ等の援助を受けながら小人数・一般住宅で生活する社会的介護形態のこと。集団生活型介護という言い方もある。

景観アドバイザー(制度)

景観アドバイザーとは、景観づくりが円滑に進められるよう、都市デザイン、建築、造園、緑化などの専門的な立場からアドバイスや助言を行う者。景観アドバイザー制度とは、住民、事業者、市町村などが行う景観づくりに関して、これを支援するため、計画の立案から実施にいたるまで、それぞれの要請に応じて景観アドバイザーの派遣・依頼を行う制度。

景観行政団体

景観行政を担う主体であり、政令指定都市、中核都市は自動的に景観行政団体になる。その他の市町村は都道府県と協議・同意により、景観行政団体になることができる。平成 25 年 1 月現在、公示済および公示予定を含め全国で 568 の地方公共団体が、山梨県においては 22 市町村が景観行政団体として位置づけられている。

景観協定

景観法に規定された良好な景観の形成に関する協定で、協定の締結には景観計画区域内の一団の土地所有者や借地権者の全員の合意が必要となる。地域の特性にあったきめ細やかな景観に関するルールを定め、自主的な規制を行うことができる制度。

ゲストハウス

一般に、アメニティサービスなどを省いた素泊まりの宿のこと。外国人旅行者やバックパッカー向けの比較的安く長期に泊まれる簡易宿泊施設の呼称として用いられることが多い。

牽引

大きな力で引っ張ること、引き寄せること。また、大勢の先頭に立って引っ張っていくこと。

限界集落

過疎化などで人口の 50%が 65 歳以上の高齢者になり、様々な社会的共同生活の維持が困難になった集落のこと。共同体として存続できる「限界」として表現されている。

顕在化

顕在とは、はっきりと形に現われて存在すること。顕在化とは、これまであまりわからなかったもの

やことが、はっきりとあらわれてくること。

建築協定

ある区域の土地所有者が、区域内における建築物の用途や形態、構造などに関して、一般の建築基準法の規定より厳しい基準を定める協定。

高規格道路

高規格幹線道路と地域高規格道路の総称。高規格幹線道路とは、自動車の高速交通の確保を図るため必要な道路で、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路のことで、高速自動車国道と一般国道の自動車専用道路がある。地域高規格道路は、高規格幹線道路を補完し、地域の自主的発展や地域間の連携を支えるため、一般国道や主要地方道の中で、ネットワーク上規格の高い道路として整備することが必要な道路のこと。

コーディネーター

いろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げる役、また、そういう職業のこと。

コーポラティブハウス

集合住宅の一種で、住まい手が建物の計画・設計に参加し、自分たちの望む住空間を創り上げていく住宅のこと。

公共下水道

主として市街地における下水を排除し、または処理するために地方公共団体が管理する下水道で、終末処理場を有するものや、流域下水道に接続するものがある。

公共交通

電車、バス、タクシーなどの誰もが利用できる移動手段のこと。

御廻米(ごかいまい)

江戸時代、多量の米を一地点（主に生産地）から他の地点（大坂・江戸などの大市場）に輸送すること、また輸送米そのものをいう。

古刹

由緒ある古い寺、古寺のこと。

コミュニティ

一般的に、地域共同体または地域共同社会のこと。まちづくりの分野では、主に住民相互の協力と連帯による地域のまちづくりの意味などで使用される。

コミュニティスクール

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。教育行政が自らの所管の公立学校の運

営や改革について手が回らないところを、地域住民等に積極的に関わってもらい、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映させることができる形態のこと。

コミュニティバス

自治体により進められている新しいバスの総称。小型バスなどを使用し、一定の地域内を地域の必要目的に合わせて運行するバスのことで、公共施設間の移動や、路線バスでカバーしきれない地域の交通手段として活用されている。

コミュニティビジネス

地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むものであり、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与するものと期待されている。

固有

本来備わっていること、そのものだけにあること。

コレクティブハウス

食堂やサロンなど共同生活の場を組み込んだ集合住宅のこと。それぞれの住宅は各戸に台所、浴室、トイレを備えた独立したもので、いわゆる寮とは異なる。

コンパクトな市街地

都市の郊外化・スプロール化を抑制し、市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圈と捉え、コミュニティの再生や住みやすいまちづくりを目指すという市街地形成の考え方。ヒューマンスケールな職住近接型まちづくりを目指すものである。この考え方は、コンパクトシティに由来している。

さ行

災害(時応援)協定

災害発生時における各種応急・復旧活動に関する人的・物的支援について、自治体と民間事業者や関係機関との間、または自治体間で締結される協定のこと。

サイクルシップ

サイクリングと船旅を楽しむツアー、レクリエーション活動のこと。

サイクルトレイン

自転車を、輪行状態のように解体せずに鉄道車両内に持ち込むことができるサービスのこと。近年、地方の中小私鉄が利用促進のために実施している

例や、イベントに併せて実施しているところも増えている。

サイン

元来、記号（合図）のことをいうが、まちづくりの分野では標識、案内板、解説板、看板などの総称として用いられる。

里山

人里の近くにあり、薪炭の利用や林業の場として生活や産業に結びついて維持されてきた森林のこと。人の手が入ることで生物生息環境としても独自の生態系を維持してきたが、生活様式の変化に伴い里山の荒廃が進んでいる。このため、各地でボランティア等による保全活動が盛んに行われている。

サポーター

支持者、後援者のこと。

サポート付体験農園

指導員や管理人がいる貸し農園のこと。農家等の指導のもと、農機具の使い方、ベッド（畝）のつくり方、病害虫、雑草の防除法、各種野菜の栽培・管理方法などを学び、楽しみながら収穫までを体験できる農園。または、そうした農業体験の取り組み。

山岳信仰

山を神聖視し、崇拜の対象とする信仰のこと。自然崇拜の一種で、狩猟民族などの山岳と関係の深い民俗が山岳地とそれに付帯する自然環境に対して抱く畏敬の念、雄大さや厳しい自然環境に圧倒され恐れ敬う感情などから発展した宗教形態であると想定されている。

山紫水明

山水（自然）の景色が清らかで美しいこと。日の光に照り映えて山は紫に、流れる川は清らかに澄んで見えること。

自給自足

生活に必要な物資を、すべて自ら（単身または家族で）手に入れる生活のあり方のこと。

自主防災組織

町内会・自治会・管理組合などを単位に構成されている防災組織のこと。自主防災組織は、近隣相互の助け合いのもと災害時の活動を円滑に行うため、防災訓練の実施や防災活動用資材の確保、各家庭における日頃からの防災意識の高揚などの活動を行う。

自助共助

「自助」は、自分の身を自分の努力によって守る

こと。「共助」は、身近な人たちがお互いに助け合うこと。災害時には、自助および共助による行動が極めて重要とされる。

シビックコア

政府施設、地方行政施設、民間施設の3者の立地を都市計画に盛り込んで行う地域整備の概念、およびこの概念に基づいて形成された地域。

循環型社会

再使用・再生利用を第一に考え、新たな資源の投入をできるだけ抑えるとともに、自然生態系に戻す排出物の量を最小限化することで、環境への負荷をできる限り少なくした循環を基調とした社会。

省エネルギー

エネルギーを効率的に使用し、その消費量を節約すること。

少子高齢化

出生率の低下により子供の数が減ると同時に、平均寿命の伸びが原因で、人口全体に占める子供の割合が減り、65歳以上の高齢者の割合が高まることをいう。

小水力発電

農業用水や小川の流れなどを使い、水車で小型発電機をまわして発電することをいう。厳密な定義はないが、新エネ法の対象である出力1,000KW以下の比較的小規模な発電施設を総称していう。太陽光や風力と違い、一定の水の流れがあれば気象条件に左右されずに発電できる。

消防水利

火災時の消防活動に必要な消火栓や防火水槽などのこと。

条例

地方公共団体がその管理する事務について、法律などの上位の規定の範囲内で、議会の議決によって制定する法令のこと。

食育

様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。食品の安全性や食事と疾病との関係、食品の栄養特性やその組み合わせ方、食文化、地域固有の食材等を適切に理解するため、全国的な情報提供活動や地域における実践活動などが行われている。

白地地域

都市計画に関して、土地利用規制や行為規制などの規制の全くない地域のこと。都市計画区域内において用途地域指定のない区域を白地地域という

こともある。

森林セラピー

森林や地形といった自然を利用した医療、リハビリテーション、カウンセリングや森林浴、森林レクリエーションを通じた健康回復、維持、増進活動のこと。

水源涵養林

地表を流れる河川の水量や地下水が枯渇しないように補給する働き、能力を水源涵養機能という。河川の上流に広がる森林は、雨水や雪解け水を貯え、徐々に河川水や地下水として放出することで水源涵養機能を果たしており、こうした森林を水源涵養林という。

スクールガード

あらかじめ各小学校に登録した地域住民により、子どもたちの通学路などの巡回パトロールや危険箇所の監視などを行う、学校安全ボランティアのこと。

スクールゾーン

歩行者と車の通行を分けて、通学通園時の幼児・児童の安全を図ることを目的に、小学校や幼稚園などのおおむね半径 500mの範囲で設定するゾーンのこと。

ストック

蓄えた物、資源などのことをいう。

ストリートファニチャー

道路や広場などに置かれる、ベンチ、案内板、街灯、水飲みなどの屋外装置物の総称。屋外（道路）の家具という意味合いからこう呼ばれる。（英語：street furniture）

スプロール

市街地が無計画に郊外に拡大し、虫食い状の無秩序な市街地を形成すること。（英語：sprawl）

スポット

地点、場所のこと。

生活道路

住宅地内などを通る生活に密着した道路のこと。

脆弱

もろくて弱いこと。また、そのさま。

セクション

組織や構成の上から他と区別される部分、部門、部署。

潜在(化)

表面に現れないで内部に隠れて存在している様子。

扇状地

河川が山地から平野や盆地に移る所などに見られ

る、土砂などが山側を頂点として扇状に堆積した地形のこと。

線引き

都市計画の区域区分の通称。都市計画法では、都市計画区域をすでに市街地となっている区域および計画的に市街地にしていく区域（市街化区域）と、市街化を抑える区域（市街化調整区域）の2つの区域に分けて段階的な市街化を図ることとされている。このことを一般的に「線引き」と呼ぶ。

雑木林

二次林のうち、薪炭材の供給源等として生活とともに人為管理してきた林のこと。スギやヒノキのような単一樹種が密生する人工林に対し、クヌギやコナラ、エゴノキなどを中心に土地本来の多様な樹木から構成されるため雑木林と呼ばれる。燃料としての薪炭を使わなくなってからは、全国的に雑木林は人手が入らなくなり、荒廃しているところが多い。

相乗効果

二つ以上の要因が同時に働いて、個々の要因がもたらす以上の結果を生じること。

た 行

ターミナル

鉄道・バスなどの終着駅。また、交通路線が集中し、発着する所。

タウンマネジメント機関(TMO)

中心市街地における商業まちづくりをマネジメント（運営・管理）する機関のこと。商店街、行政、住民、その他事業者等の様々な主体が参加し、まちの運営を横断的・総合的に調整し、プロデュースする役割をもつ。英語の town management organization の頭文字をとって TMO とも呼ばれる。

多自然型工法

自然や生態系に配慮した工法のことをいう。道路ではけものみちの確保や自然型擁壁の設置、河川・水路では、魚道の確保、多自然型護岸、ワンドの設置、緑化では実のなる木など生き物の生息に配慮した緑化などが行われる。

団塊世代

第二次世界大戦直後の日本において、1947年から1949年までのベビーブームに生まれた世代。ベビーブームに関係なく時代的・文化的・思想的な共通性からの分類に関しては定義が錯綜しているが、最も広い定義としては、1946年から

1954年までに生まれた世代とされる。

田んぼの学校

古くから農業の営みの中で形づくられてきた水田や水路、ため池、里山などを、遊びと学びの場として活用する環境教育活動のこと。任意の主体がそれぞれの発意で独自の活動を展開している。

地域通貨

国が発行する「法定通貨」とは異なり、特定の地域やコミュニティのなかで、財・サービスを交換するためのシステム、またはそこで流通する通貨のこと。その特徴として、限定された範囲で流通すること、利子を持たないことなどがあり、現在、コミュニティのつながりや地域経済の活性化を促進するものとして活用されている。

地球温暖化(現象)

物の燃焼に伴い派生する二酸化炭素などは、地球から宇宙に熱を逃す赤外線を吸収して地球の温度を高く保つ効果があるため、温室効果ガスと呼ばれる。このような温室効果ガスの大気中の濃度が高くなることにより、地球上の気温が上昇する現象のこと。

地区計画

都市計画法に基づき比較的小規模の地区を対象に、建築物の建築形態、公共施設の配置などからみて、それぞれの区域の特性にふさわしい良好な環境の街区を一体として整備・保全するため定められる計画。

地産地消

地域生産地域消費の略語で、地域で生産された農・水産物をその地域で消費すること。国の基本計画では、地域で生産された農産物等を地域で消費しようとする活動を通じて、農業者等と消費者を結び付ける取組みもさし、これにより、消費者と生産者が「顔が見え、話ができる」関係で地域の農産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農業等と関連産業の活性化を図ることを位置づけている。

チャレンジショップ

商店街活性化を目的とした空き店舗対策として、地元商工会、商店街振興組合等が、空き店舗の一部を店舗開業希望者に期間限定で格安に賃貸する創業支援事業のこと。チャレンジショップ事業主体には、国、都道府県から補助金が給付されるなどのバックアップもあり、「チャレンジショップ」とは文字通りショップ開業にチャレンジする人たちと、空き店舗対策を図る地元商店街との双方の

メリットを目指す試みである。

中山間地域

平野の外縁部から山間地をいう。山地の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の73%を占めている。

鎮守の森

日本において、神社に付随して参道や拝所を囲むように設定・維持されている森林の通称。かつては神社を囲むように必ず存在した森林のことで、社の字をあてることも多い。

ツーリズム

観光事業、旅行業、または観光旅行のこと。

菴米学校

山梨県に数軒残る藤村式建築（明治6年に県令だった藤村紫朗の名を冠した建物）のひとつであり、当時の近代的洋風校舍として高く評価されている。明治9年(1876年)に旧菴米学校として開校し、現在は民俗資料館として学校に関する資料を展示している。

堤外地

堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を「堤内地」と呼ぶ。これに対して、堤防に挟まれて水が流れている川側を「堤外地」と呼ぶ。

低床バス

客室床面をほぼ全長にわたって低くつくり、乗降口との段差を小さく、もしくは無くしてフラットにし、乗降しやすくしたバスのこと。

ディベロッパー

大規模な土地開発業者のこと。

デマンド交通

デマンド（英語：demand）とは「要求、要請」という意味。利用者が電話で手続きを行い、運行区域内の希望する乗降場から目的地まで乗合で運行し、予約がなければ運行しない新しい公共交通のこと。小型車で済むことから、経費削減やバスが走れない狭い道でも運行ができる。

デマンドバス(システム)

自家用車に近い感覚で利用するという発想で生まれたバスシステム。情報提供端末や電話等によるリクエストに応じたバス運行を行うことにより、高齢者等の移動利便性の向上や効率的なバス運行の実現を可能にする。過疎によって路線バスが廃止された後の交通手段として導入されるケースが多い。

電 柵

動物が触れた際に、弱い電気ショックを与える機構を付加した柵のこと。主に中山間地域などの獣害対策として用いられる。

特用林産物

主として森林原野において産出されてきた産物で、通常林産物と称するもの(加工炭を含む)のうち、一般用材を除く品目の総称(きのこ類をはじめ、くり、くるみ等の樹実類、うるし、はぜの実から搾取される木ろう等の樹脂類、わらび等の山菜類、おうれん、きはだ等の薬用植物および桐、たけのこ、竹、木炭、薪等多岐にわたり範囲は極めて幅広い)。

都市(基盤)施設

道路・公園・下水道など、様々な都市活動を支えるための施設のこと。

都市計画区域

都市計画を策定する区域の単位となるものであり、都市の実態や将来の計画を勘案して、一体の都市地域となるべき区域として県が指定する区域。

都市計画決定

地域地区、都市施設、市街地開発事業などの様々な計画内容を都市計画法によって定められた手続きにより、正式に決定すること。

都市計画審議会

都市計画に関する事項を調査審議するため設置される地方自治体の付属機関の総称で、都道府県都市計画審議会、市町村都市計画審議会の2種がある。

都市計画提案制度

土地所有者やNPO、民間事業者等が、一定規模以上の一団の土地について、土地所有者の3分の2以上の同意等一定の条件を満たした場合に、都市計画の決定や変更の提案ができる制度。平成14年における都市計画法の改正で創設された。

都市計画道路

都市計画法に定められた都市施設の一つで、都市計画決定された道路のこと。

土地区画整理事業

地区内の土地所有者から土地の一部を提供してもらい(減歩)、その土地を道路や公園などの新たな公共用地として活用し、整然とした市街地を整備することにより、居住環境を向上し、区画を整形化して利用増進を図る事業。

トップセールス

企業の社長や自治体の首長など、組織のトップ(長)が、直接的な宣伝販売活動を行うこと。

トライアル

試すこと、試み、試行。

トレイルラン(ニング)

ランニングスポーツの一種で、舗装路以外の山野を走るスポーツのこと。近年は、自然に触れながら体力増進やフィットネス感覚で始める人も多く、マラソンブームと登山ブームの両者の要素を併せ持つスポーツとして人気を集めている。

トレッキング

山歩きのこと。登頂を目指すことを主な目的とする登山に対し、特に山頂にはこだわらず、山の中を歩くことを目的としている。ハイキングは、自然風景や歴史的な景観を楽しむため、軽装で、一定のコースや距離を歩くことをいう。

な 行

内水氾濫

河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土地(人が住んでいる場所)にある水を内水と呼ぶ。大雨時の側溝、下水道、排水路の溢水や、支川と本川の合流地帯等での本川の水位上昇から外水が小河川に逆流するなど、内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路などが水につかってしまうことを内水氾濫という。

なまこ壁

塗り壁の仕上げの一種で、平らな瓦を壁に張りつけ、目地の部分は漆喰を盛り上げた形に塗ったもの。雨や風などに強く、土蔵の腰壁などに多く用いられている。

ニーズ

必要とされること。要求、需要のこと。

二地域居住(マルチハビテーション)

二地域以上の、複数の居住空間に生活することをいう。定住という概念を超えた多面的な居住形態である。そのため、マルチ(multi-「多様な」)とハビテーション(habitation「居住」)を組み合わせた造語で、マルチハビテーションとも呼ばれる。

ニューツーリズム

従来の物見遊山的な観光旅行に対し、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態。活用する観光資源に応じて、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズムなどがあり、旅行商品化の際に地域特性を活かしやすいことから、地域活性化につ

ながるものと期待されている。

ネットワーク

元来は、「網細工、網の目のような組織」という意味であるが、まちづくりの分野では、地域に分散する拠点などを、単独では持ち得ない複合的な魅力を出させるために、相互連携を図ること、または、その連携網のことをいう。

農地バンク制度

近年、農業従事者の高齢化や後継者不足等により遊休農地が増加傾向にあり、このような農地を登録してもらい、借り受け希望者へ紹介し、農地の有効活用と貸し借りを支援する制度。正式には「農業経営基盤促進法における農地保有合理化制度及び農用地利用集積計画制度」という。

ノウハウ

ある専門的な技術やその蓄積、方法やこつのこと。

乗合タクシー

過疎地や交通空白地域等での輸送需要や住民ニーズに対応するため、乗合バスではなく、乗車定員10人以下の自動車、いわゆるタクシー車輛を使用した運行形態。乗合バスと同様の定時定路線方式やデマンド方式などがある。

法面(のりめん)

切土や盛土によって造成された人工的な斜面のこと。

は 行

パークアンドライド

交通混雑の緩和や大気汚染等の改善のために、車を都市郊外の駐車場に止めて、鉄道やバスに乗り換え、都心あるいは特定地域に入るなど、自家用車とバス・鉄道などを適切に組み合わせた交通システムのこと。

バイオマス

生物資源 (bio) の量 (mass) を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石燃料を除いたもの」をいう。

バイオディーゼル燃料

生物由来油からつくられるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーのひとつ。バイオディーゼルフューエル (英語: bio diesel fuel) の頭文字をとってBDFともいう。

バイパス

迂回のための流路、あるいは迂回することそのものを意味し、都市計画では、混雑する市街地や山間部の狭い区間などを迂回する「バイパス道路」

のことをいう。

ハザードマップ

自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。予測される災害の発生日点、被害の拡大範囲や被害程度、さらには避難経路、避難場所等の情報が既存の地図上に図示される。ハザードマップを活用することにより、災害発生時に住民が迅速・的確に避難を行うことができ、また二次災害発生予想箇所を避けることができるため、災害による被害低減に有効となる。

パブリックインボルブメント

計画づくりの初期の段階から、関係する住民等に情報を提供したうえで、広く意見を聴き、それを計画づくりに反映していく住民参加手法。英語の public involvement の頭文字をとって PI と呼ばれる。

パブリックコメント

意見公募手続き、意見提出制度のこと。行政など公的な機関が、規制、規則などの制定・改廃、計画の策定などにあたり、原案を事前に公表して住民などから広く意見や情報提供を求め、意思決定に反映させる制度。(英語: public comment)

バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去することをいう。建物内の段差の解消など物理的な障壁の除去から、障害者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁の除去という、より広義的な意味も含む。

ビオトープ

ドイツ語のビオ (bio「生命」) とトープ (top「場所」) との合成語で、多様な生物が共存・共生できる環境を持った場所や空間のこと。緑豊かな自然の水辺や雑木林がその代表例である。また、開発事業などに際して積極的に保全、回復、創出が図られる野生生物の成育・生息環境という意味でも用いられる。

ビジョン

将来の構想、展望のこと。また、将来を見通す力、洞察力という意味もある。

避難路

避難には避難路と避難場所が必要であり、避難路は、屋外の場合道路や通路となる。避難道路とは、災害時に避難場所まで遠距離避難を余儀なくされる地域などに住む人が、指定避難場所へ安全に避難するために、あらかじめ指定した道路のことを

いう。

避難場所

災害時に著しい被害が発生するおそれがある地域等であって、住民が避難することができる安全な場所。

氷室

天然氷を蓄えておくために設けた室のこと。地中や山かげに穴をあけて氷を置き、その上を茅などで覆うなどして保存していた。

ヒヤリハット・マップ

犯罪や事故が起きるかもしれない「ヒヤッ」、「ハッ」とした出来事のことをヒヤリハット情報といい、このヒヤリハット情報を地図上に落とし込んだものをヒヤリハット・マップという。犯罪や交通事故などを未然に防ぐためには、その情報を共有し、これに基づいた対策を講じることが有効とされる。

費用対効果

コストパフォーマンス（英語：cost performance）と同義語。あるものが持つコスト（費用）とパフォーマンス（効果）を対比させた度合い。投資しようとする商品やサービスなどの価格が、満足度・機能などの価値に見合っているかどうかを示す指標として用いられる。

ビューポイント

良好な景観を眺めることができる地点や場所のこと。視点、観点、立場、見どころなどの意味もある。

ファームステイ

農家民泊・農家体験等を通しながら、地域の自然環境や生活文化を体験するなどの都市と農山漁村の交流を育む余暇活動のこと。

ファミリーサポートセンター(事業)

乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と、当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う機関。またはその事業のこと。

フィルムコミッション

映画やドラマのロケーション（野外撮影）を地元で誘致し、スムーズに撮影が図られるよう支援する活動で、ふるさと自然や歴史等をPRし、住民のふるさとへの愛着や意識の醸成を図る上で効果的である。現在、山梨県で「山梨フィルムコミッション」を推進している。

フォッサマグナ

ラテン語で「大きな溝」という意味。日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目とされる地帯。中央地溝帯とも呼ばれる。

フォローアップ

課題や課されている役割などについて、その達成状況や進捗、結果などを検証・分析し、さらなる修正やアドバイス、継続的な調査等を行うことをいう。

付加価値

生産過程で新たに付け加えられる価値のこと。何らかのモノを使って、新しいモノを生み出すと元々のモノより高価値なモノとなり、このように「価値が付加される」という意味合いで「付加価値」と呼ばれる。一般的に使われる場合、通常とは違う、独自の価値やサービスが付随するケースに用いることが多い。

富士川舟運

徳川家康の命を受けた京都の角倉了以らの手により、富士川の開削が行われ、山梨県富士川町の鰻沢と静岡県富士市の岩淵を結ぶ物資の輸送手段として、江戸時代初期から昭和初期までの約300年間に渡り隆盛を極めた舟運のこと。信州方面や甲州方面への陸路との接点に位置していた鰻沢、青柳、黒沢の三河岸は、富士川舟運の要衝地となり、特に、鰻沢河岸は流通の拠点として大きく発展したが、舟運は、鉄道（身延線）の開通に伴い衰退し、終焉を迎えた。

フットパス

英語の footpath のことで、日本語では「散歩道」となる。森林や田園地帯、古いまちなみといった、風景を楽しみながら散歩できる小道のことをいう。そうした小道を散歩することをフットパスウォークという。

不法投棄

法律や規則に違反し、山や河川等にゴミ等を捨てること。

プラスワン住宅

アトリエ、スタジオ、オフィス等一般の住宅にプラス機能が付いた住宅のこと。

ふれあいペンダント

ひとり暮らしの高齢者等の急病または事故等の緊急事態に迅速に対処するため、発信機器を貸し出し、日常生活の安全と不安を解消することを目的とした緊急通報システム。

ブロードバンド

英語のブロード(broad「広い」とバンド(band「帯域」)の複合語で、データをやりとりするための電波や電気信号、光信号などの広い周波数帯域のこと。一般的には、それを利用した高速・大容量の通信回線や通信環境のことをいう。

プロモーション

販売などの促進、奨励活動のこと。広告、宣伝、昇格、昇進という意味もある。

文化的景観(制度)

文化的景観とは、文化財保護法で「地域における人々の生活または生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第一項第五号)」と定められている景観のことである。「景観法」の制定と併せ「文化財保護法」の一部改正により、これまで文化財として保護の対象外であった水田や里山など、人と自然との関わりの中で作り上げられた景観(=文化的景観)も保護の対象として位置づけられた制度。

防災拠点

地震などの大規模災害時に、地域住民などが一定期間の避難生活をするのできる場所。

ポケットパーク

歩行者が休憩し、または近隣住民が交流するための空間で、道路もしくは道路沿いに設けられた小さい広場のこと。「ベストポケットパーク」の略で、ベスト(チョコキ)のポケット程度の小さい公園という意味(英語:pocket park)。

ポジティブリスト制度

食品の残留農薬などに対する規制を強化した制度。

ポテンシャル

可能性として持っている能力、潜在的な力のこと。

ボランティア

自発的な意志によって奉仕活動を行う人。

ま 行

マスタープラン

基本的な方針として位置づけられる計画、または全体の基本となる計画のこと。

マニュアル

手引書、取扱説明書のこと。

水辺の楽校(制度)

子どもたちにとって河川が身近な自然体験の場となるように、安全な水辺の整備と河川管理者等が地域の人々と十分に連携を図り、河川が利・活用

されるような体制・施設の整備と、これを維持管理できる環境づくりを行うことを目的として、国土交通省が文部科学省、環境省と連携し、進めているプロジェクト。

道の駅

国土交通省(制度開始時は建設省)により登録された、休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設のこと。道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域住民のための「情報発信機能」、道の駅をきっかけに地域が連携し活力ある地域づくりをともに行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ。

みみ(伝承料理)

十谷の集落に伝えられている郷土料理のひとつで、小麦粉を練って一口大にしたものを野菜とともに味噌味に煮込んだもの。名前の由来は、かたちが農具の箕(み)の形に似ている、また、形が耳に似ているなどの説がある。

低未利用地

市街地内における遊休化した工場、駐車場、空き地など、有効に利用されていない土地のこと。

メディア

情報の記録、伝達、保管などに用いられる媒体、手段などのこと。特に、マスメディアの略称として、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのことをいうことが多い。

モニター

監視や監査、指導を行うこと、またはその装置や人のこと。一般の人の中から選出され、意見や感想を述べる人。

や 行

有機的

有機体のように、多くの部分が緊密な連関をもちながら全体を形づくっているさま。

遊休農地

過去一年間以上にわたって耕作の目的に供されず、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地のこと。

UJIターン

Uターン、Jターン、Iターンの総称。Uターンとは、地方で生まれ育った人が一度進学・勤務などで地方を離れた後に、再び自分の生まれ育った故郷に戻ることに。Jターンとは、地方で生まれ育った人が一度進学・勤務などで地方を離れた後に、故郷に近い別の地方に移住すること。Iターンと

は、出身地にかかわらず、自分の住みたい地域を選択して移住すること。

ユニバーサルデザイン

全ての人のためのデザインという意味。年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。

要衝

軍事・交通・産業などのうえで大切な地点、要所のこと。

用途地域

都市計画法により、都市の環境保全や利便性の増進のために、地域特性に応じて計画的に建物の用途に一定の制限を行う地域のこと。住居系・商業系・工業系の地域に大別される。

余裕教室

少子化により児童数や学級数が減少し、将来にわたっても空き教室と見込まれる教室のこと。

ら 行

ライフスタイル

一般的には生活様式を示し、衣食住のみではなく、交際や娯楽なども含む暮らしぶりのことをいう。さらに、生活に対する考え方や習慣をも含む意味でも使用される。

ライフライン

元来は、「命綱」の意味（英語：life line）。エネルギー供給施設、水供給施設、交通施設、情報施設など、生活や暮らしを支えるため地域にはりめぐらされている基盤施設のことをいう。

ランドマーク

地域の目印や象徴的な建造物、自然物のこと。建造物としては記念碑や塔、建築物などがあり、自然物としては、山や特異な地形、奇岩などがある。

リーダーシップ

集団をまとめながらその目的に向かって導いていく機能のことで、指導者としての資質・能力・力量・統率力のこと。

リーディング

他の語の上に付いて、先頭または首位である意を表す。本計画では、先導的などという意味で用いている。

リサイクル

資源の再生利用・循環使用のこと。システムとして確立することにより、環境への負荷低減や省資源・省エネルギー、ごみの減量化などの効果が期待できる。

リスク

危険、危険度のこと。また、結果を予測できない度合いや予想通りにいかない可能性などの意味でも用いる。

律令制

律は刑法についての規定、令は行政法・訴訟法に関する規定であり、主に古代東アジアで見られた中央集権的な統治制度のこと。わが国においても古代国家の基本法として律と令の体系を基軸として形成された国家統治が行われていた。

リユース

再使用すること。そのままの形体でもう一度使うこと。再利用。

緑地協定(制度)

都市緑地法に基づく制度で、一団の土地所有者等の全員の合意により、町長の認可を受けて締結される緑地の保全または緑化に関する協定のこと。協定には、対象区域、樹木を植栽する場所や種類、違反した場合の措置などが定められ、認可の公告後にその区域に移転してきた者に対しても効力を有する。

レクリエーション

精神的、肉体的な疲労回復や日常生活に潤いを求めて行う余暇活動のこと。休養、娯楽という意味もある。

6次産業(化)

第一次産業である農林水産業が、その生産だけにとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を活かしたサービスなど、第2次産業や第3次産業にまで踏み込むこと。農林水産省は、農漁村の活性化のため、地域の第1次産業とこれに関連する第2次、第3次産業に係る事業の融合等により、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を行う6次産業化の取り組みを推進している。

路側帯

道路交通法に規定される、歩行者の安全や車道の効用保持のために、道路の左側に白線で分離される部分のこと。歩行者の安全のために、歩道がない道路または道路の歩道がない側に設置され、車道と分離することにより基本的に歩道と同様に扱われる。

わ 行

ワークショップ

作業場・研修会などの意味を持つ言葉であるが、

都市計画・まちづくりの分野では、地域にかかわる諸問題に対応するために、様々な立場の参加者が、経験交流や合意形成の手法など多様な協働作業を通じて、地域の課題発見、創造的な解決策や計画案の考察、それらの評価などを行っていく活動のことをいう。

ワンド

河川敷にできた池状の入り江のことで、本川から離れた溜まりも含めていう。希少な魚をはじめ、種々の生物、植物などが共存、共生する豊かな環境であることが認められており、環境保全、環境教育などの観点から、その価値が評価されている。

富士川町都市計画マスタープラン

平成 26 年 3 月

発 行：富士川町

編 集：建設課

〒400-0695 山梨県南巨摩郡富士川町鯉沢 1599-5

TEL 0556-22-7203 FAX 0556-22-5290

URL <http://www.town.fujikawa.yamanashi.jp>

協 力：株式会社 プレーンズ



富士川町

富士川町都市計画マスタープラン
CITY PLANNING OF FUJIKAWA TOWN